

調査・研究評価検討会議事要旨

1. 日 時 令和6年6月3日（月） 13時30分～17時30分

2. 場 所 財務省関税中央分析所 大会議室

3. 出席者

【外部専門家】

(座長) 公益財団法人 総合安全工学研究所 専務理事

中 村 順

元 一般社団法人 研究産業・産業技術振興協会 調査研究部長

嵩 比呂志

筑波大学 数理物質系 物理工学域 教授

佐々木 正洋

【関税中央分析所】

所長 石 田 晶 久

主任研究官 小 栗 智 裕

第1調査研究室長 船 津 幸 徳

第1調査研究室研究官 今 村 洋 太

第2調査研究室長 野 崎 達 也

第2調査研究室監視官 山 崎 良

第2調査研究室研究官 小 河 佑太力

第2調査研究室 飯 田 拓 之

(事務局)

総務課長 鈴 木 賢

総務係長 蒲 池 慶 大

4. 議事概要

(1) 調査・研究をとりまく背景等について、事務局から説明が行われた。

(2) 調査・研究課題について、大要次のような評価がなされた。

① 四極共鳴（NQR）を用いた不正薬物探知装置の調査研究（中間評価）

本研究について、これまでの研究で判明した問題点は、アンテナの構造の見直し、シールドルームの改良及び人体等価ファントムを使用した性能評価等により、実運用に十分耐えられる仕様に改善されつつある。引き続き、性能の実証等に向けて取り組んでいただきたい。

一方で、アンテナの高性能化による探知感度の向上、それに伴う電磁シールドの簡略化といった改善の余地があるほか、海外の空港等においてセキュリティ検査のワンストップ化が進んでいることを踏まえ、更なる利便性の向上・検査の迅速化を期待したい。

以上のことから、本調査研究を継続させることは妥当であると考える。

② X線CT装置の物質識別に関する調査研究（中間評価）

本研究について、従前から課題であった薬物探知精度は、先端技術を活用することで大幅な向上を実現しているが、その一方で、一部薬物に反応しない事象が確認されていることから、引き続き、精度向上に向けて取り組んでいただきたい。また、検査現場での活用を見据え、検査体制の最適な運用方法を検討することにより、本機能の効果が十分に発揮され、水際取締りの効率化に繋がることを期待したい。

以上のことから、本調査研究を継続させることは妥当であると考える。